



2010年2月18日 第2337回例会 週報2163号

2009-2010年度RIテーマ

「ロータリーの未来はあなたの手の中に」

# 富田林ロータリークラブ

- ❖ 国際ロータリー会長：JOHN KENNY
- ❖ 2640地区ガバナー：村上有司
- ❖ 創立：昭和37年6月6日
- ❖ 会長：辻 隆司      ❖ 幹事：田中正章      ❖ 会報委員長：寺田廣美
- ❖ 例会：富田林市民会館 毎週木曜日 12:30～13:30



❖ 事務局 ❖ 〒584-0012 富田林市粟ヶ池町2969-5  
 <Tel>0721-26-0133    <Fax>0721-26-0443  
 <URL> http://tondabayashi-rc.org/  
 <E-mail> kikusui@abeam.ocn.ne.jp

## 本日のプログラム

- ソング                  我等の生業
- 3分間スピーチ      遠藤特一会員
- 卓話                      久保田寛様  
   (株式会社 サンクスギビング)
- 理事会 (8)

## 今後の予定

- 2月25日(木)    卓話  
   富田林税務署長 山田伸次様
- 3月4日(木)    卓話 堀野俊男会員
- 3月7日(日)    石川清掃  
   第2回PETS
- 3月11日(木)   3月7日(日)に例会変更
- 3月14日(日)   クラブ青少年交換委員長会議
- 3月18日(木)   卓話
- 3月25日(木)   卓話 中畑会員  
   家族親睦会(大相撲大阪場所)
- 3月20-22日   ライラ

## 出席報告

例会日	会員数	出席者	MU	出席率
2/4	34(7)	22(3)	1	74.07%
1/28	34(7)	23(4)	1	74.07%
1/21	34(7)	26(4)	1	85.19%

( )内は出席免除会員

- 4つのテスト●
- 言行はこれに照らしてから
- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなのためになるかどうか

## 今週の歌

### 我等の生業

我等の生業(なりわい)さまざまなれど  
 集いて図(はか)る心は一つ  
 求むるところは平和親睦(やわらぎむつび)  
 力(つと)むるところは向上奉仕  
 おおロータリアン  
 我等の集い

### ビジター・ゲスト歓迎の歌

Welcome to our club meeting  
 Welcome our many wonderful friends  
 今日の一時 どうぞごゆっくり

## 2010年2月4日 第2336回 例会記録

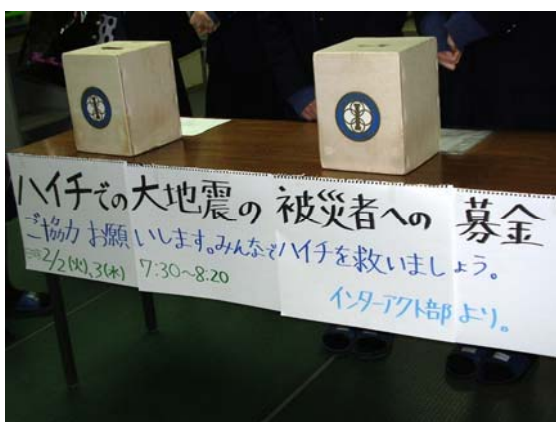
### ★ゲスト

フレデリック・クリスチャンセン君  
(2009-10年度青少年交換長期受入学生)



### 委員会報告

●初芝富田林高校 I A C・・・顧問 細川久美子先生



2月2日(火)と3日(水)の朝、校内でハイチ大地震被災者救援のための募金活動を行いました。寒い中頑張った甲斐あって、46,671円集まりました。ユニセフに届けます。

### 会長の時間・・・辻隆司会長

今日2月4日は暦の上では立春ですが、まだまだ寒い日が続いています。皆様も風邪をひいている方が多いと思いますが、参考の為私の健康法を紹介したいと思います。この健康法を続けることによって、風邪ひきがちが少し治りました。

まず早朝の散歩で朝5時30分くらいに起きて、30分間早足で歩きます。そして夜寝る前に風呂から出るとき、全身に水をかけてバスタオルで乾布摩擦をします。これが私の健康法で、お金はまったくかかりません。今週の論語は、

しいわ まな おも すなわ くら  
子曰く、学ばざれば則ち罔し。

おも まな すなわ あや  
思いて学ばざれば則ち殆うし。

―― 教わるばかりで自分の頭で考えようとしなければ、ものごとははっきり見えてこない。自分で考えるばかりで、教えを仰ぐことをしなければ、独断におちいって危険だ。

● 「会社創立時とその後」

昭和 44 年 4 月 21 日設立社名「東邦セパレータ株式会社」

大阪市城東区古市北道 4 丁目 12 番地

今年の 4 月でまる 41 年目を迎えます。設立に至るまでの事について少しお話させてください。昭和 33 年頃に特殊紙の販売商社に入社、気層防錆紙という特殊紙の販売を担当、金属関係の多数の会社を販売促進のために訪問いろいろな情報を収集、東大阪の工作機械メーカーの技術担当者よりクーラントセパレーターの欧米の情報を聞く。クーラント（ワークにかける冷却水、冷却油）のフィルティング（ろ過）をペーパー式で大量の処理をしているという情報を得る。耐水強度が優れ、浸水性能、ろ過容量に適した紙、今でいう不織布の事ですが、このペーパーセパレーターについてまず現状を知るにはマグネットセパレーターのメーカーに行けば動きがあるのでないかということで、大阪市淀川区御幣島にあります大塚鉄工所を訪ねる。マグネットセパレーターのメーカーとしては九州、名古屋、東京に数社ありますが、大阪ではこの大塚鉄工所だけでした。この会社の設計部の担当者から第 1 号機になるペーパーセパレーターを現在設計中で、これに見合う適当なるろ過紙を検討中であるとも知らされる。ここからこのろ過紙の開発に関わるのですが、ナイロンを主原料とした製紙方法で従来の製紙機械で漉き上げて製品を作りました。製紙メーカーは静岡・三島にあります「特殊製紙」という会社でした。工作機械メーカーは同じ静岡沼津にあります東芝機械、ロール研磨機のクーラメントセパレータに使用、最終ユーザーが鉄鋼メーカーの淀川製鋼でした。使い捨てるろ過紙で消耗品として使うためにコストが問題になります。ナイロン繊維では高価すぎるため、ビニロン繊維でやろうと製紙メーカーを岐阜の真砂製紙と言う会社で製品を作りました。ここで作ったビニロン紙はペーパーセパレーターに使用することはまずまず製品としては価格、品質ともクリアしました。昭和 38 年ごろから日本でもバイリーンの不織布が出来るようになり、数社のメーカーが参入して不織布が生産されるようになります。工作機械メーカーもより加工精度を高める為クーラント液のろ過装置を取りつける所が少しずつ増えてきます。ろ紙式セパレーターのようなアメリカ式の使い捨て時代が間もなくやってきます。昭和 44 年にこのクーラント液をろ過するためのフィルター販売の会社を設立します。ペーパーセパレーター用の不織布の原反は四国川之江市にあります「シンワ株式会社」というところから仕入れる事ができるようになりまして今日に至っています。

昭和 62 年頃にシックナーバッグセパレーターを考案し製造販売をするのですが、このセパレーターの長所は取り扱いが簡単で場所をとらない、ろ過精度が高い等の利点があって、段々と普及していきます。大手の工作機械メーカー様が使ってくれるようになります。

創立 41 年目ですが工作機械の付属クーラントセパレーターの製造販売会社として営業を続け現在に至っています。



## ニコニコ

- ☺辻会員 本月もよろしくお願ひします
- ☺田中会員 今月も例会出席よろしくお願ひします
- ☺壺井会員 早退おわび
- ☺伊藤会員 欠席のおわび

小計 10,000 円

## 地区行事その他出席者

- ★富田林RAC(2/2) 北岡・瀧会員
- ★堺おおいずみRC(2/10) 壺井会員
- ★地区研修セミナー(2/14)  
北岡・瀧・豊岡・松澤・豊田会員

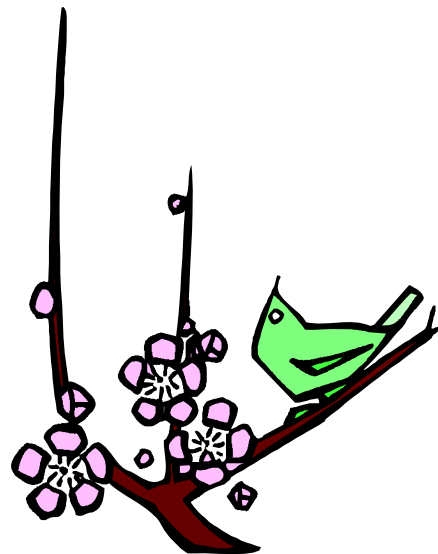
## 月例ニコニコ

- ☺藤本会員 奥様誕生日
- ☺辻会員 誕生日
- ☺森井会員 奥様記念日
- ☺壺井会員 入会記念日
- ☺遠藤会員 誕生日
- ☺寺田会員 奥様誕生日・職業奉仕記念日
- ☺中畑会員 誕生日

小計 40,000 円

合計 50,000 円

累計 1,257,000 円





### ●世界の情報「動かして動かさない」…寺田廣美会員

2010年1月12日の現地時間午後5時（日本時間13日午前7時）頃、カリブ海地域の人口およそ1000万人のハイチで、マグニチュード7.0の大地震が発生したのは記憶に新しいと思います。現地政府からはまだ詳細な被害状況についての発表はありませんが、同国首相は10万人以上が死亡したとの見解を表明しており、さらに、大統領府や、国連の施設、日本の大使館も大きな被害が出ております。改めて地震の恐さを知り、免震技術・耐震技術の重要性を再確認させられました。

地震で建物が揺れる。この常識に挑戦する企業があります。それは大林組です。大林組は「世界初の地震で揺れないビル」として同社技術研究所の新北館棟を2009年10月から施工しています。この揺れないビルを実現に導いたのは、大林組が開発した「ラピュタ2D」という制御技術です。この技術は、信号に応じて物体を引いたり押ししたりするアクチュエーターで、地盤が揺れた分だけ建物を動かして、建物の位置を変えないということです。地震が起きるとまず地面に設置したセンサーが地震の加速度を測ります。これをもとに、地盤が動く距離を計算し、その結果を送られたアクチュエーターは地盤が動く距離だけ、建物を引いたり押ししたりします。揺れを検出してから、建物を動かすまでにかかる時間は約0.1秒で、この一連の作業を1/1000秒毎に行います。従来の免震技術では、建物の揺れを、地盤に対して1/3～1/5にまでしか軽減ができませんでした。しかし、この「ラピュタ2D」の働きで高さ2.6メートルの建物の模型を使った実験では地震波の揺れを1/30～1/50にまで抑えることが出来、震度5強の揺れでも、床に立てた鉛筆でさえも倒れなかったという結果を残しています。

「ラピュタ2D」の今後の課題は、コスト面です。一般的な免震構造にかかる費用は全体の約5%なのですが、「ラピュタ2D」は10%を占めてしまいます。揺れないというメリットを売り物にすれば、ある程度の顧客は確保できるかもしれませんが、装置の少量化や設計などに工夫を凝らし、コストによる壁が取り除かれていくでしょう。

阪神淡路大震災が起きて15年が経ちました。過去の出来事を変えることは出来ませんが、その痛みを味わったからこそ、このような画期的な技術が生まれたのだと思います。地震国日本にとって、地震対策の技術は大きな関心ごとの一つであるのは間違いありません。さらに建設不況と言われている昨今では、この地震対策の技術革新は需要を生み出すきっかけになるのではないのでしょうか。

